

## 「西條」

## 伊能忠敬の生き方に学ぶ

校長 荒屋 誠

生徒の皆さんは、伊能忠敬という人物のことを覚えていますか。社会科でも学習したと思いますが、江戸時代の終わりに正確な日本の地図をつくった人物です。18歳の時に酒造りを営む伊能家に養子に入りました。当時、伊能家の経済状況は大変厳しく、忠敬は、朝から晩まで一生懸命に働いて伊能家の酒造りなどを立て直しました。

忠敬は、若い頃から地図をつくる仕事をしてきたわけではありません。忠敬が、地図を作ろうと考えたのは、50歳になって酒造りの仕事を引退してからなのです。しかも、地図づくりを教えてくれた高橋至時先生は、忠敬より19歳も年下で、自分の息子より若い先生でした。

当時、自分の故郷を離れて江戸に出て、息子より年下の先生に一から学ぶというのは、簡単なことではありませんでした。しかし、忠敬は寝る間を惜しみ天体観測や測量などをしっかり学び、その後、地図をつくるため、73歳になるまで全国各地の様々な場所に出かけました。今と違って電車や車はないので、ほとんどが歩きの旅でした。忠敬にとっては、年をとってからの旅だったことから、大変な苦労があったと思います。それでも、弱音を吐くことなく、17年間も日本全国を歩き、73歳までに多くの地図を完成させました。地図づくりのために歩いた距離は、地球一周分にも相当



新潟県佐渡島 千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵

する驚異的なものでした。そして、忠敬の作った地図の正確さは、現在の地図と比べても見劣りしません。

私たちは、よく「時間がないから勉強できない」と言うことがあります。忠敬のような人物には、なろうと思ってもなかなかなれるものではありません。しかし、最初から「なれない」と諦めないで、少しでも、忠敬に近づく努力をすることが大切だと思います。

私は、これを機会に、生徒の皆さんに歴史に関する本に親しむことをお勧めします。歴史には、これまでの人類の営みが凝縮されています。政治も経済も芸術も宗教も、全て歴史を通じて参照することができます。また、歴史上の人物の生き方や考え方から多くのことを学ぶことができます。図書室には歴史小説や伝記をはじめとする歴史に関する本が多くありますので、ぜひ手に取って読んで欲しいと思います。